

(第3種郵便物認可)

2018年(平成30年)2月1日 (2)

ASEAN製品を訴求

会員のコラボで展示会

アジア・アパレルものづくりネットワーク

アジアに進出している縫製企業・関連企業が集まるNPO(非営利組織)法人「アジア・アパレルものづくりネットワーク」(AAP)は、今月二十七日(三月二日)、東京・千駄ヶ谷のオーダー・オブ・メリット・プランニング(OMP)のイベントホールで「AAP 2018秋冬」展示会を開く。メイド・バイ・ジャパンのモノ作りを紹介しビジネスチャンスを拡大するのが目的で、今回は縫製、二次加工、生地、付属、検品、物流などの会員企業がコラボした提案も行う。

2月27日～3月2日、東京で

AAPは現在七年目、物流などの企業で、会員は五十六社。本が入会している。ASEANの縫製、二次加工、検品などが三十一社、協力・特別協賛会員としてに生産拠点を持っていた素材、副資材、機器・シリ、進出を検討している

企業の勉強会や情報収集・交換が目的で、東京で二月月に一度の例会、また年一回海外視察ミッションなどを行っている。合同展はこれまで二〇

一二年と一三年に開催したが、この二回はAAPの紹介、各工場の技術レベルをアピールした。今回のテーマは「メーカー・パトナー」で、縫製メーカーだけではなく、テキスタイルや服飾副資材、二次加工、物流

などの会員とのコラボによる提案を打ち出すのが大きな特色という。展示会には二十五社が参加。会員の生地や付属を使ったモノ作りや、オリジナルASEANの生地・付属・工場の製品を提案したり、検品や物流会社と工場の組み合わせで納期・コストをアピールするなど、会員同士が連携した展示会にする。

展示製品は中国、ベトナム、バングラデシュ、カンボジア、ラオス、ミャンマーなどの会員工場を手掛ける。会員で企画業務を行っているOMPが企画監修し、一八年秋冬向けを中心にセレクトショップ風に構成する。製品に取り付けるタグラベルにはQRコードを印刷し、企業概要、使用素材、仕様などが分かるようにする。また、日本語と英語で表記した「ルックブック」も制作。参加企業を紹介することも、ASEANに関心を持たれるようなガイドなどを入れる。

期間中にアパレル、百貨店、セレクトショップ、商社など約百五十社、三百人以上の来場を見込む。AAPは昨年七月、設立七周年記念シンポジウムを東京で開催した。アジアに広がった会員の生産背景や企業努力などを紹介したが、「参加したアパレルやリテラーから、もう一度AAP会員工場の商品を見たい、どこでどうやって生産しているか知りたい」という声が多くあったことから、三回目の合同展示会を開くことにした。